『１月１日１６時１０分』

『令和６年１月１日１６時１０分』
この時間皆さん何をしていたでしょうか？テレビは、正月の特番が組まれ、とても賑やかに日本中が新年のお祝いムードでした。しかし、災害は突然起こりました。テレビが急に緊急地震速報にどの番組も変わりました。『震度７』。場所は能登半島。東日本大震災の記憶が蘇ってきました。津波…。食い入るようにテレビを見ていました。なんてことだ…お正月に…。災害は突然やってくることに気が付かされました。待ったなしです。

１月４日に出勤し、古くからお付き合いのあった富山県氷見市社会福祉協議会に事務局長が連絡しました。

「人がほしいです」

現地の把握、災害ボランティアセンターを立ち上げることから人手が足らないことは予想がつきました。三連休を挟んだ翌９日、琴平社協から１名、香川県社協から１名が富山県氷見市社会福祉協議会に向かいました。

朝に出発し、夜に到着しました。車を運転していると大通りのはずなのに道がデコボコしていました。現地に到着し、すぐさま翌日からの業務の打合せを行い、自分の役割の確認をしました。打合せの最中も余震が。震度３。体感的に５秒くらいでしょうか、５秒でも長く感じました。

翌１０日。災害ボランティアセンターでの業務の開始です。県内から多くのボランティアの皆さんが訪れます。「氷見市がボランティアの募集をしていると聞いたので何かしたいと思い来ました。」こんな熱い想い人たちがたくさんいました。氷見市社協の職員さんたちと話している中で、住めてはいるが、断水は続いている、お風呂に入ろうと思い、やっている銭湯にいったら超満員で、子どもが泣いたので入るのをやめたと聞きました。氷見市社協の職員の皆さんも被災者でありながら、一生懸命支援を行っている姿を見て、少しでも力にならなければという思いを強く持ちました。

１月１２日。帰りは雨。ワイパーを動かすと白いものが何度もつきます。恐らく建物が倒れたりしたときの埃だろうと思います。そう思うとマスクをしてなかったら衛生的にも悪いだろうなと思いました。高速道路に乗って、こちらに帰ってくる時、虚無感というか、自分が行ったことで何かしら役に立ったのか、自分にできることは他にないのか、このまま帰っていいのか、もっと居て助けたい。いろんな思いが頭の中を駆け巡りました。

これから私にできることは、現地に行って見てきたこと、やってきたことを皆さんに伝えていくことだと思っています。災害は突然やってきます。当たり前にしていた生活が当たり前でなくなります。朝起きて、顔を洗って、歯を磨いて、ご飯を食べたり、仕事に行ったり、学校に行ったり、お風呂に入ったり、洗濯したり、友達と遊んだり、同僚と飲みに行ったり…。ひとたび災害が起きると治療を受けなければならない身体なのに治療が受けられなくなったりします。本当に「備える」ことが大事だと思いました。

最後に、氷見市に行って強く思ったのは、地域住民同士の助け合いの素晴らしさです。現地調査で住民さんと話していると、いろんなところで、「あそこのお宅に何人かで行って片付けしてきたんよ」その言葉を何件も聞きました。「〇〇さんが部屋の片づけに来てくれたんよ」。社協としてもこんな地域づくりがとても大切だなと改めて痛感させられ、逆に学ぶことが多くあった支援となりました。

K³

キッズことリンピック！！

冬休みに、K³の皆さんが企画運営した「キッズことリンピック」が開催されました。約５０人の子どもたちが３小学校から集まりました。６チームに分かれ、K³が考えた種目を子どもたちが挑戦し、得点を競いました。

思い切り走ったり、思い切り笑ったり、見ていてこちらもすごく楽しませてもらいました。

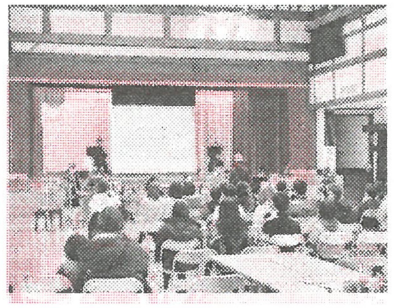
この企画も約１０年続いています。町内の３小学校の子どもたちが町内の友達を増やしてほしいという思いから開催しています。この子どもたちの笑顔を見るたびに、なんかホッとする自分がいます。子どもたちには琴平のまちでノビノビと育ってほしいなと思うと共に、K³の皆さんと共に事務局としても活動をしっかりサポートしていき、子どもたちの笑顔が増えるように頑張っていきたいと思います。

またこの企画にこれだけの方たち↓が関わっています。琴平の若いパワーをこれからも存分に発揮してほしいと思います！

４１５のわ　クリスマス会

地域と中学校のコラボ

「４１５のわ」の皆さんが琴平中学校吹奏楽部の皆さんの協力を得て、クリスマス会を行いました。琴平中学校吹奏楽部は四国大会に出場している実力校です。演奏はとても心地よく、そして、迫力があり、鳥肌が立ちました。サンタクロースも登場し、子どもたちは笑顔に包まれました。サンタさんはどの時代の子どもたちにとっても永遠のアイドルですね。



４１５のわがイベントを開催したら本当にたくさんの人で溢れます。活動１０年以上の実績を持ち、地域に定着した４１５のわ。子どもたちの笑顔が、４１５のわの活動を支えています。事務局としても、４１５のわの活動をしっかりバックアップし、子どもたちの笑顔を一緒に創っていきたいと思います。

令和６年能登半島地震災害義援金

３７，３５０円

集まりました。ご協力ありがとうございました。引き続き、募金を行っていますのでご協力よろしくお願いします。